旭中通信

練馬区立旭丘中学校
学校通信　７月号
令和３年７月１日発行

戦争と平和について

校長　　渡邊　重幸

緊急事態宣言が解除されたもののまん延防止等重点措置が11日までとなりました。このことを受け、D組は6日～8日に武石方面に移動教室に行く予定でしたが、9月28日～30日へ延期となってしまいました。残念なことですが、楽しいことは後まで取っておくとポジティブに考えていきましょう。

さて、本校では6月12日（土）に道徳授業地区公開講座（「命の授業」の講演会を兼ねる）を行いました。昨年の8月6日と9日は、第2次世界大戦の末期に広島と長崎に原子爆弾を落とされてから75年に当たると大々的に報じられました。ただ、東京に住んでいる私たちが忘れてはならないのが『東京大空襲』です。

東京都は、1944 年（昭和 19 年）11 月 24 日から 1945 年（昭和 20 年）8 月 15 日まで、106 回の空襲を受けました。特に 1945 年 3 月 10 日、4 月 13 日、4 月 15 日、5 月 24 日未明、5 月 25 日-26 日の 5 回は大規模でした。1945 年 3 月 10 日の夜間の東京大空襲では、32 万 7000 発の M69 焼夷弾が投下され、罹患者は100万人を超え、推定10万人もの尊い命が失われました。

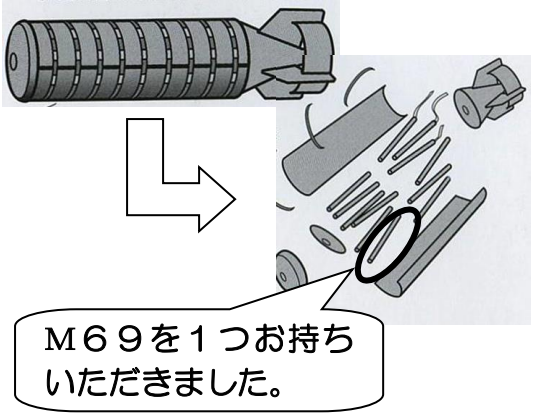
講演会にお呼びした二瓶治代先生は自身が8歳の時に亀戸で東京大空襲にあいました。家族と共に火の中を逃げ惑い、気が付いた時には多くの亡くなられた方の下敷きになり、一番下にいたので炎から免れ助かったそうです。「街は累々とした死者たちがゴミくずのように転がっていました。この人たちも数時間前までは戦時下を一生懸命生きていた人たちです。戦争をくり返さないためにも、身元も男女の区別も分からない姿で死んでいった人たちがいたことを伝えなければ･･･」「平和のために何ができるでしょうか。まず、戦争が本当はどういうことなのかを知ることです。」と想い、50 数年を経て東京大空襲･戦災資料センターで、ガイドボランティアを始めました。戦争の恐ろしさや今平和に生きられる幸せを当たり前と思わず、日々感謝していくことを二瓶先生は私たちに伝えてくれました。

生徒も真剣に二瓶先生のお話を聞いていました。生徒の感想をいくつか紹介します。

- 防空壕に入っていても死んでしまうということにびっくりしました。また、妹のけがを治すための油を下さった方の優しさはすごいなと思いました。大変な状況の中でも誰かのために何かができるなんてすごいと思いました。
- ３月１０日の空襲は２時間半の出来事だけど、悲しいエピソードばかりで胸が締め付けられるようでした。戦争で命を落とす人々がでることのないように、国内だけではなく世界中の人々と協力し合い、平和が続くようにすることが大切だと思いました。
- 今ある平和な世界をこれから先も維持していくために、私たちが社会を担い、二度と戦争が起きない未来を進めていかなければならないと感じました。また、現在の生活を大切にしていこうと思いました。

＜E46収束焼夷弾＞

焼夷弾とは火災を起こさせることを目的に作られたもので、その中身は爆薬ではなく油脂ガソリンです。焼夷弾そのものはM69といわれるもので、それを36発ひとまとめにしたものがE46収束焼夷弾です。



◀　投下からしばらくすると本体が分解され、36発のＭ69がばら撒かれました。

＜道徳　１校時＞

○テーマ「生命の尊さ」

　道徳授業地区公開講座の１校時は全学年全クラスで「生命の尊さ」をテーマとして道徳の授業を行いました。

　１学年　「ひまわり」
　２学年　「命が生まれるそのときに」
　３学年　「命の選択」
　Ｄ　組　「いただきま～す」

　どのクラスの生徒も真剣な表情で取り組んでいました。特に３学年は、資料として、祖父の意思に反して延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章や尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を取り上げながら、生死の在り方について深く考えました。

【大会結果】

＜バドミントン＞
　選手権大会
　　女子団体　都大会出場
　　女子個人　３位
　　個人戦にて都大会出場

＜バレーボール＞
　練馬区夏季総体
　　練馬区　準優勝
　　第３ブロック　第６位
　　都大会出場

＜野　球＞
　練馬区夏季総体
　　対　大泉学園（０―３）

＜ソフトテニス＞
　練馬区夏季総体
　　男子個人戦
　　対　開進第三　２―③
　　対　三原台　　０―③
　　対　大泉高附　２―③
　　対　大泉高附　１―③
　　女子個人戦
　　対　中村　　③―２
　　対　三原台　　０―③
　　対　大泉北　　１―③
　　対　大泉西　　③―２
　　対　石神井南　２―③
　　男子団体戦
　　対　大泉北　　０―③
　　女子団体戦
　　対　開進第二　０―③